

令和5年12月号

宗教法人 お告げのマリア修道会

聖マリア病院

●TEL:0959-72-5101

●FAX:0959-74-1771

●URL:<https://g-maria.jp/>
〒853-0052

長崎県五島市松山町 133-2



マリアの風 web

深堀実先生を憶う

院長 山中 淳子

秋になり、ある朝、窓を開けると清々しい風が部屋を通り抜けました。私の修道院の部屋からは鬼岳のなだらかな稜線がくっきりと見えます。いつも、時間に追われながらバタバタと出勤しますが、ある日、自然界の佇まいがとても新鮮で、「今日、生きている、今日が始まる。」と感じた朝がありました。深堀実先生とお別れしてから、たまにそんなことを感じる瞬間があります。

9月5日、深堀実先生が突然天国に旅立ちました。とても動揺しました。受け入れ難さを感じるお別れでした。深堀先生と言う方は即決、即実行、なんでもテキパキと物事を進めて行くタイプでした。深堀先生らしい旅立ちだったのかもしれませんが。深堀先生は2019年7月、自ら希望されて聖マリア病院に就職されま

した。就職に先立ち、私にくださったお手紙の中に「どれだけ、お役にたてるか危惧するところではありますが、私なりに最後のご奉仕だと考えて働きたいと思っています」と記しておられました。医師人生をカトリック病院でご奉仕して全うしたいとお考えだったと思います。お会いする前から、なんて崇高な心の先生だろうと、尊敬の念を抱きました。先生は明るく陽気で、歌が好きで、はきはきお話になり、また一面では人の心の機微を敏感に感じ取る優しさをお持ちでした。医師の先輩としてご指導頂いたこともたくさんありました。そして祈りの人でした。神様への深い深い探究心がありました。

今は深堀先生との出会いを唯々感謝しています。先生との思い出や、教えて頂いたこと、先生の生き方を胸に刻み、大事にしていきたいと思っています。天国での再会の日を待ちながら。

院内トピックス

11月4日 追悼記念ミサ

一年間にご帰天された患者さんと当院に関係する方を追悼するミサが捧げられました。今年は職員だった深堀実先生やお世話になった宮崎昭行先生も追悼することになりました。福江教会の中田神父様は、わたしたちが患者さんの要望に応えることで、その人たちが天国に行く手助けをできている、応えられなかった部分は神さまにお任せしましょうと語られました。



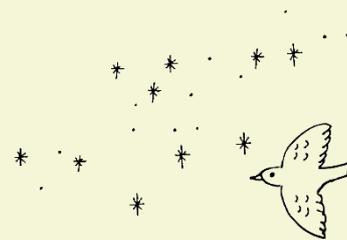
11月10日 火災避難訓練

火災避難訓練と防火訓練を行いました。火災発生時の動きを確認し、初期消火、通報、患者さんの避難誘導の練習を行いました。最後に防災会社の方から消火器の使用法や注意点の説明があり、実際に消火器を使用し消火する体験をしました。



11月20日 聖マリア保育園 園児訪問

勤労感謝の日に合わせて、聖マリア保育園の園児たちが病院を訪問し感謝のメッセージを伝えてくれました。「いつもありがとうございます」の大きな声が病院の中に響き、外来のスタッフや患者さんたちも思わずほっこりしていました。



ありがとうコーナー



大石たまごは
野瀬様より



レタスは
JSH様より
いただきました。



11月23日(木)

5回目となる「まごころひろば」が開催されました。皆様からいただいたたくさんの品物は、必要な方に持ち帰っていただきました。ご協力ありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします。

ある日のひとこま



先月から院内各所のワックスがけが行われてい
ます。息の合ったチーム
ワークで、手際よく仕事
が進みます。晴天の日
が多く、乾きが早い
ので助かっています
そうです。

お知らせ・病院カレンダー

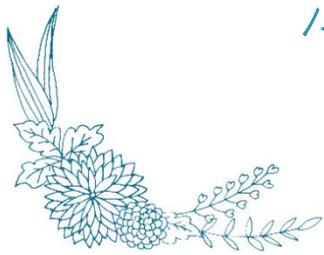
- ・12月14日（木） 忘年会
- ・12月25日（月） クリスマスミサ
- ・12月30日（土） 仕事納め

*12月30日(土)午後より1月3日(水)まで外来は休診です。
新年は令和6年1月4日(木)より始まります。

編集後記

本号では、9月に急逝された深堀先生の追悼集を編集することになりました。深堀先生の旅立ちを通して、先生が医師として、キリスト者として、家族の一員として培ってきたものの一部を垣間見る機会をいただきました。深夜でも早朝でも連絡を受ければ三井楽まで診療に通い、決してそれを苦にした様子はみせず、いつも通りひょうひょうとされている先生を幾度か見かけました。「いつも喜んでいなさい」（一テサロ二ケ5章16節）をキリスト者の生き方の理想と語っていたことを後で知りました。聖マリア病院のために尽くしてくださった先生に感謝いたします。（編集者）

深堀 実先生を偲んで



地域連携室に勤務している時

私が地域連携室で勤務していた時、眉間にしわを寄せながら、「田崎く～ん」と名前を呼びながら連携室へ入ってくる事がありました。その時は必ずと言っていいほど、何らかのトラブルや、あるいは問題を持ち込んで来ていました。その度、『今度は何をやらかしたのか』と思いながら先生の話に耳を傾けていました。

相談内容としては、退院先が見つからない・家族と連絡が取れないなど患者に関することが殆どでした。時折、ありがたい事に仕事とは全く関係のないお食事のお誘いなどもあり、その時は快く了解させて頂きました。

解決策を先生と一緒に考え方向性が決まると眉間にしわを寄せ入ってきた先生はころっと表情を変え、座っていた椅子も片付けず鼻歌を歌いながら連携室を出て行っていました。本当に感情をすぐ表に出す先生（分かりやすい先生）で、今でもその一連の光景が思い出されるとともに「田崎く～ん」を聞けない事が寂しく思います。

今となっては、誰にでも助けを求めることが出来る先生は、トラブルや問題が起きたら「神さま～」と言って助けを求め、天国でも落ち着かない生活を送られているかもしれませんね。ただし、椅子だけは片付けるようにしましょう！（事務長 田崎幸一）



思いがけないことが

2023年9月5日、深堀実先生の突然のご逝去を受け留めねばならなくなり「主は思いがけない時に来る」というみ言葉が思われました。

普段通り帰宅されましたのに、その数時間後には信じることができないような、思いがけない出来事が起こっていたのでした。よく通る散歩道だったともお聞きしております。どうされたのでしょうか。薄暗さが迫ってくる夕方、足を滑らせたのでしょうか。5mの高さの防波堤から転落して強打し、助けを求めることもできず、痛みをこらえながら、無念の思いを抱き、力尽きたのでしょうか。日々の務めを果たしながら、自分の趣味を楽しみ、奥さまや子どもさん、お孫さんたちを思いやり、夢を求めて明るく生きておられました。

先日の夏祭りでは、シスター手作りのふくれまんじゅうをたくさん買って「孫たちにも送ってあげるのだ」と嬉しそうな笑顔を見せられました。

鼻歌を口ずさみながら歩いておられたお姿を拝見することもできなくなりました。漢方の知識を教えていただくことも、心電図や心エコーをしていただくこともできません。どうして足早に天国に帰られたのでしょうか。無念の思いはつきません。

深堀先生、天国からわたしたちを見守りお祈りください。

(医師 松永マサ子)



深堀先生の追悼に寄せて

2023年9月5日から間もなく3ヶ月になろうとしているのに、私のなかでは時間が止まったままの状態、深堀先生の死に対して心の整理が出来ていないのが現状です。深堀先生の追悼集を作成するというので、せめて「深堀先生ありがとうございました。」という感謝の気持ちだけは伝えたいと思い、寄稿させていただくことにしました。

2019年7月1日から丸4年3ヶ月。決して長い時間ではなかったかもしれませんが、多くのことを語り、笑い、共感すること

が出来た貴重な日々でした。医師としての豊かな経験と、人としての深い味わいを聖マリア病院で十分発揮して下さっていただけに喪失感も大きいのだと思います。

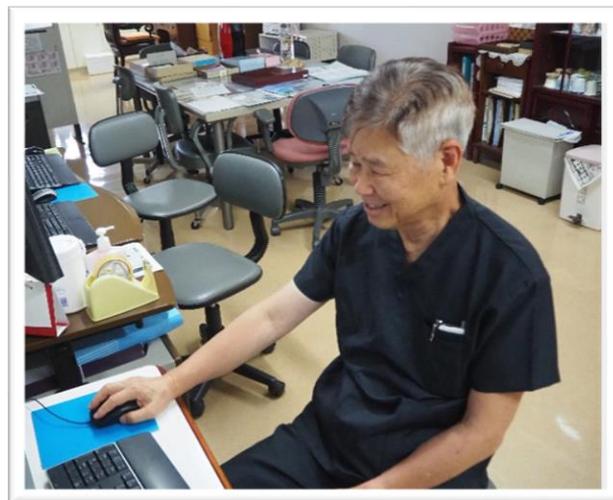
先生はじっとしていることが苦手で、診察の合間の検査結果の出るまでの待ち時間、患者様が来られるまでのちょっとした空き時間に薬局に立ち寄ってくださいました。誰でも受け止める寛大さと気さくな性格が相まって何でも遠慮なく会話することが出来ました。いろいろな分野の事、死についても度々話すことがありました。先生は正直者で分かりやすく、「こう言ったらこう返ってくるだろう。」という私たちの予想にいつも応えてくださいました。その反面、物事には妥協しない一途な面も持ち合わせておられました。深堀先生のイメージは、複数の人の中で楽し気に笑って皆と喜び合う姿です。毎日の特別ではない「日常の会話」が何より楽しいものでした。

先生は福岡で、カトリック西新教会に所属しておられました。西新教会には御復活、聖母被昇天祭、クリスマスの年3回「ともに」という教会だよりが発行されています。2019年クリスマス号から「五島だより」と題して、毎回寄稿しておられ、最後の2023年聖母被昇天祭号は「五島だより」のちょうど10回目でした。五島に来られる前の2019年御復活に寄稿された「Smile! (笑いなさい)」という題目の西新教会の皆さんへのお別れの記事は深堀先生の生き方と人柄がよく現れていると思います。皆さん、良かったら目を通してみてください。 (薬局にあります。)

先生はシスターたちの人間的弱さを認めながらも、シスターというだけで大切にしてくださいました。たくさん美味しいものを食べさせていただきました。

わたしにとって、深堀先生、及び奥様の玲子さんとの出会いは、神さまからの特別なお恵みとしか表現できないものです。これからの生活の中で先生のために祈り、玲子さんと先生のことを懐かしく語りながら心の整理をし、お礼をするしかないのだと思うこの頃です。 深堀先生、本当にありがとうございました。

(薬剤師 久志貞恵)



感謝



深堀先生の思い出

深堀先生はとても明るく誰にでも気さくでよく鼻歌を歌っていました。声がよく通るので先生の居場所はすぐに分かり、かくれんぼは絶対向いていないと思いました。薬局で楽しく話す声が聞こえ、用事があったので事務所に来ればいいなと念じていたのですが、感がいいのかスーッといなくなったことも思い出されます。

(事務室 職員)

深堀先生とは病院外でもいろいろとお誘いをしていただく機会もあり仕事中の雰囲気とはまた違ったとても親しみのあるユーモアのある振る舞いに最初はとても驚かされました。一緒に夕食に行った際には私の故郷の対馬で以前深堀先生がお仕事をされていたとの事で昔の対馬の様子や出来事をいろいろとお話ししていただきました。

教会のイベントの際には迷っている私に道案内をしてくださり、各所から食べ物を持ってきてくださるなどいろいろと親切にしてくださいました。今回、突然の出来事でとても受け入れがたく残念に思いますが私にとって深堀先生との過ごした時間は五島での大事な思い出の一つとなりました。深堀先生、本当にありがとうございました。

(理学療法士 内田干城)



深堀先生の思い出

出勤時に会うと、口笛を吹き、鼻歌を歌い、挨拶すると「おはよう」と返ってきます。たまーに「なんしょっと」と話しかけてきますが、それはマレな出来事でした。電話をかけると「はい」「ほーい」と返事が返ってきます。ある時には「はい、消防です」と言われ焦ったことがありました。「なんね、はよ言わんか」「それがどーした、何が問題だ」と難しいことを言われり「これはなあ」と説明していただいたり、患者様の目の前で注意を受けたり、いろんなことが思い出されます。
(外来看護師 里中小百合)

